

最近、宇都宮大学学生のなかで、流行性耳下腺炎が疑われるケースが発生しました。

流行性耳下腺炎は、「おたふくかぜ」ともよばれる、ムンプスウイルスによる全身感染症です。通常みられる症状は、片側あるいは両側の耳下腺の腫脹、疼痛や発熱です。顎下腺、舌下腺も同様に腫脹することがあります。また、約10%に無菌性髄膜炎をおこし、頭痛や嘔気、嘔吐がみられます。難聴や、きわめてまれには、重症な脳炎の合併もあります。

感染者の約1/3は無症状に経過しますが（不顕性感染）、発症前の潜伏期後半も含めて他の人にうつす感染源になりうるということがわかっています。ウイルスは急性期に唾液腺、血液、尿、髄液などから分離されます。

感染から発症まで（潜伏期間）は14～24日と幅があります。流行性耳下腺炎は、ウイルス特異的な治療法はなく、解熱と鎮痛を期待した内服薬の頓用や、局所の鎮痛に冷湿布などが用いられます。ワクチンによる予防が中心となります。

宇都宮大学では、学生が感染症に罹患した場合、医師の診断に基づき、出席停止となる感染症を定めており、学生が、出席停止となった期間に出席できなかった授業については、届け出により出席扱いにするとともに、学生に教育的不利益が生じないように配慮しています。ですから、罹患が疑われる場合はすみやかに学生支援課へ電話連絡をして下さい。

耳下腺、顎下腺などの唾液腺腫脹や疼痛、圧痛、発熱などが認められたときは、医療機関を受診し、「宇都宮大学で流行性耳下腺炎が疑われるケースが発生している」ことを伝えて、診察を受けましょう。

そして、流行性耳下腺炎（疑いも含む）と診断された場合は、上述のようにすみやかに学生支援課へ電話連絡をお願いします。

症状などについてのご相談は、保健管理センターに電話してお尋ね下さい。

学生支援課 028-649-5097

保健管理センター 028-649-5123